

JASV ベンチマーキング 2025 年成績確定!

~1 母豚当たり粗利最優秀農場は(有)高尾牧場~

(一社)日本養豚開業獣医師協会(JASV)は5月8日、東京都・AP 東京八重洲において、オンラインと対面の併用でベンチマーキングセミナーを開催した。171 農場の年間成績を分析した結果、年間1母豚当たり粗利部門最優秀農場は兵庫県の(有)高尾牧場で94万5772円だったが、前年トップの97万6922円を3万1150円下回る結果に終わった。1母豚当たり出荷枝肉重量部門、1母豚当たり離乳子豚数部門、農場枝肉FCR部門の3部門で青森県の(有)飯田養豚場が最優秀賞を受賞し(2815.5kg/36.46頭/3.86(歩留率65%で生体換算すると2.51)、離乳後事故率部門では岩手県のみなみよ~とん(株)が1.38%でトップに輝いた。

2025年(暦年)のJASVベンチマーキングには全国から181農場がデータを提出し、異常値/データ欠損農場、黒豚飼養農場を除いた171農場につき各部門の1~3位を選考した。トップ成績を前年と比較すると、①1母豚当たり粗利:3万1150円減、②1母豚当たり出荷枝肉重量:141.6kg増、③1母豚当たり離乳頭数:1.67頭増、④農場枝肉FCR:0.04増、⑤離乳後事故率:0.34減、だった(次頁表参照)。入賞者には日本養豚事業協同組合より副賞が贈られた。

データの解析を行った明治大学の佐々木羊介氏の総括によると、出荷肉豚1頭当たり販売額は過去最高値を4年連続で更新し中央値で4万5717円だった。年間1母豚当たり販売額も過去最高値を更新し中央値で2024年112万円を4

万円上回って116万円となった。年間1母豚当たり粗利益の中央値は前年より8%増加し過去最高57万5152円を記録した。

繁殖成績では、1腹当たり生存産子数が中央値で13.4頭(前年13.2頭)、上位10%では15.4頭(同15.1頭)、1母豚当たり離乳頭数が中央値で27.2頭(27.4頭)、上位10%では31.4頭(31.4頭)など。農場枝肉FCR(飼料要求率)は中央値で4.64(生体換算3.02)、上位10%で4.16(2.70)だった。そのほか、飼料費が円安やウクライナ情勢の影響で高止まりしていること、ワクチン・抗生剤費の農場間のバラツキが拡大していることなどが指摘された。

この日のセミナーで行われた講演は、①MSDによるベンチマーキングと数値から見る世界の養豚生産動向…Dr. Derald Holtkamp(アイオワ州立大学)、②2025年ベンチマーキング総括…佐々木羊介氏(明治大学)、③事例発表:年間1母豚当たり粗利益部門最優秀賞…田村和也氏((有)高尾牧場)、④事例発表:年間母豚1頭当たり粗利益部門3位…池田修平氏((株)アーク花泉農場)、⑤電子指示書システムから得られたデータの活用・解析法の試行的検討…細井悠太氏(農水省動物医薬品検査所)、⑥ベンチマーキング委員会活動報告…JASV、であった。

年間1母豚当たり粗利益で1位となった高尾牧場の田村氏は事例発表で、「粗利1位を支える3つの要因は、①ブランド価値(枝肉単価)、②繁殖・肥育成績(無駄のない効率的な管理)、③コスト構造(食品工場残渣、自家配合飼料)」とし、1母豚当たり飼料費はC判定だが販売額の高さで吸収して1位となった背景を説明した。

◆JASVベンチマーキング2025の上位成績優秀農場

部門名	順位	農場名	数値
母豚1頭当たり粗利益部門	最優秀賞	(有)高尾牧場	¥945,772
	第2位	(有)マルミファーム	¥924,732
	第3位	(株)アーク 花泉農場	¥876,285
母豚1頭当たり出荷枝肉重量部門	最優秀賞	(有)飯田養豚場	2815.5kg
	第2位	(有)田代養豚場	2517.9kg
	第3位	(有)岩徹養豚	2495.0kg
母豚1頭当たり離乳子豚数部門	最優秀賞	(有)飯田養豚場	36.46頭
	第2位	(有)岩徹養豚	34.71頭
	第3位	ファロスファーム(株)北広島・西城・御調農場	32.90頭
農場枝肉FCR部門 (生体換算/編集部)	最優秀賞	(有)飯田養豚場	3.86(2.51)
	第2位	ファロスファーム(株)北広島・西城・御調農場	3.89(2.53)
	第3位	(有)岩徹養豚	3.92(2.55)
離乳後事故率部門	最優秀賞	みなみよ〜とん(株)	1.38%
	第2位	(有)佐野養豚	1.65%
	第3位	(株)大平牧場	1.72%

◆JASVベンチマーキング2025 Jump Up賞受賞農場

Jump Up賞 部門名	農場名	昨年との差	2025年	2024年
●母豚1頭当たり粗利益	(有)アクティブピッグ	¥191,615	¥842,983	¥651,368
●母豚1頭当たり出荷枝肉重量	(有)石上ファーム 柏熊	331.4kg	1712.1kg	1380.7kg
●母豚1頭当たり離乳子豚数	(有)浅野農場	3.85頭	27.63頭	23.78頭
●農場枝肉FCR	(有)石上ファーム 徳宿	-0.75	4.9	5.65
●離乳後事故率	(有)肉質研究牧場 井手	-5.77%	12.95%	18.72%

富士宮市で3月に続き 104 例目豚熱発生

～静岡、ワクチン接種前の分娩舎中心に患畜～

静岡県と農水省は5月5日、静岡県富士宮市で豚約2930頭を飼養する農場で豚熱が発生したと発表した。同じ富士宮市内では3月11日に感染が確認され(102例目)、19日に防疫措置が完了していた。県内で2例目、全国では104例目の発生となる。

農水省の公表資料によると、5月4日に当該農場から異常が見られるとの通報があり、県の立入検査の結果、豚熱の疑いが生じた。動物衛生研究部門における精密検査により5日、患畜と判明した。詳細を静岡県農業局畜産振興課に確認したところ、当該農場からは、分娩舎の哺乳子豚で下痢が発生しており、4日に数十頭が死んだということで通報された。立入検査で得た検体のPCR検査

の詳細は明らかにされていないが、陽性になったほとんどは分娩舎の哺乳豚で、一部は離乳豚だったとしている。ワクチン接種は家畜保健衛生所の獣医師が行っていた。接種日齢は、免疫賦与状況調査の結果を踏まえて決定しており、当該豚群の接種日齢は明かしていないが、少なくとも哺乳豚はワクチン接種前、離乳豚については、ワクチン接種後でも発症を防御するだけの免疫が賦与されていない状態の豚だったとしている。

一連の豚熱感染で、ワクチン接種開始後のケースで分娩舎における発生例は極めて少ないが、奇しくも103例目の宮崎県都城市での発生が同様のケースで、しかも異常把握の前兆として確認されていた症状が下痢だった。詳細は疫学調査の結果を待たなければならないが、哺乳豚の感染・発症を防御するだけの移行抗体が母豚から得られていなかった可能性が想定される。